

## JOURNAL

春祭ジャーナル

東京・春・音楽祭 > 春祭ジャーナル > 作曲家の横顔 ～協道コラム集～ > ヴェーヴァのヴェルディ 第3回 その占いは当たる

春祭ライブラリー

2022/11/29

### ヴェーヴァのヴェルディ

第3回 その占いは当たる

文：飯尾洋一（音楽ジャーナリスト）



1859年のヴェルディ

みなさんは占いは好きだろうか。

ワタシはあまり好きではない。年が明ければいつも初詣に足を運ぶが、決しておみくじは引かない。ひと頃、血液型占いが大ブームになって他人に血液型を尋ねるのが挨拶代わりにになっていたが、その度に「さあ……よくわからないんですよ」と答えていた（事実よくわからない）。えっ、動物占い？ 自分、ニンゲンっす！ ニンゲンで占ってください！

そこまで占いを避けるのは、逆にいえば占いというものに恐れを抱いているからでもある。気にしない人間なら、迷わずおみくじを引ける。

ヴェルディ「仮面舞踏会」の主人公リッカルドは、おそらく占いなど恐れていなかったのだろう。評判の女占い師ウルリカのもとに足を運んだのは、おもしろ半分の軽い気持ちだったはずだ。水夫がウルリカから「金と昇進を手に入れる」と占ってもらった様子を目にすると、リッカルドはこっそり昇進の辞令を書いて、水夫のポケットに入れてやる。水夫は占いが当たったと大喜びするが、それを実現させたのはリッカルドだ。リッカルドは自分が運命をコントロールしていると思っている。だが、ウルリカから見れば、そんなリッカルドの気まぐれまで含めて、正しく占ったことになる。

ウルリカはリッカルドに「最初にお前の手を握った友人の手にかかって死ぬ」と予言する。そこに現れたのが忠実な友レナート。リッカルドは迷わずレナートと握手をして、占いは外れたと宣言する。

もちろん、ウルリカの占いは当たるのだ。オペラに登場する予言はいつも当たる。百発百中だ。同じヴェルディの「マクベス」でも、シェイクスピアの原作通り、魔女が予言を的中させる。「マクベスは王となり、バンコーは王になれないが、子孫が王となる」「パーナムの森が動かない限りマクベスは敗れない」「女から生まれた者にマクベスは倒せない」（マクベスは帝王切開によって産まれたマクダフに倒される）。ピゼーの「カルメン」では、カード占いがカルメンの不吉な運命を予告する。ベルリオーズの「トロイの人々」では王女カッサンドラが禍を予言するが、だれも聞く耳を持たない。オペラじゃないが、大河ドラマ「鎌倉殿」にもウルリカみたいな歩き巫女が登場して、不吉な予言を当てる。当たりすぎて怖い。

逆に外してばかりの予言者が出てくる話って、ないものなんではなかろうか。



マクベスが魔女に出会う場面

#### 関連公演

▶ イタリア・オペラ・アカデミー in 東京 vol.3 リッカルド・ムーティによる《仮面舞踏会》作品解説

▶ イタリア・オペラ・アカデミー in 東京 vol.3 リッカルド・ムーティ指揮《仮面舞踏会》（演奏会形式／字幕付）

▶ イタリア・オペラ・アカデミー in 東京 vol.3 リッカルド・ムーティ introduces 若い音楽家による《仮面舞踏会》（抜粋／演奏会形式／字幕付）

中絶

プライバシーポリシー